

『新愛徳丸』が日本船舶海洋工学会より「ふね遺産」の認定を受ける

日本船舶海洋工学会の「ふね遺産」認定制度において、ふね遺産第46号として『新愛徳丸』が認定された。9月11日に開催された認定式では、関係者（当会、船主（株）愛徳）及び造船所（ジャパンマリンユナイテッド(株)）を代表して、当会が日本船舶海洋工学会橋本会長より認定書を受領した。

『新愛徳丸』は、当会が平成6年4月に事業を継承した財団法人日本船用機器開発協会が支援し、石油危機の状況下で開発された「機主帆従方式」（通常はエンジン駆動で、帆の推進力が増加した場合は機関の出力を低減させる制御方式）による省エネルギーを図ったタンカーで、昭和55年に竣工した。

鋼製の矩形フレームに帆布を張った構造とし、展縮・旋回機構を装備した帆装置で、燃料消費量の低減、減揺効果による耐航性の向上、それに伴う稼働率の増加という波及効果も明らかになった。

海運におけるGHG排出削減が至上命題となった今日において、新たなコンセプトの帆装商船の建造再開に結び付いた先見性が評価された。

「ふね遺産」認定制度は、歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連施設を「ふね遺産」として認定し、社会的に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、「ふね遺産」を通じて、国民の「ふね」についての関心・誇り・憧憬を醸成し、歴史的・文化的価値のあるものを大切に保存しようとする機運を高め、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的に平成29年より実施されており、これまで48件が認定されている。



新愛徳丸



認定証授与式の様子